

日本医師会・日本獣医師会・厚生労働省によるワンヘルス連携シンポジウム

ワンヘルスのいろいろなカタチ

開催日時：令和8年4月24日（金）9：00～12：00

開催場所：東京国際フォーラム ホールB5

プログラム

【主催者挨拶】 公益社団法人 日本医師会
公益社団法人 日本獣医師会
厚生労働省

〔座長〕 堀内 基広（北海道大学 One Health リサーチセンター長・教授）

【シンポジウム1】

「ワンヘルスの社会実践」：福岡県における12年間の実践と未来への羅針盤

今村 和彦（公益社団法人福岡県獣医師会副会長）

【シンポジウム2】

宮崎県におけるワンヘルス理念の実践

岡林 環樹（宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター副センター長）

【シンポジウム3】

One Health for One Future

－北海道大学 One Health リサーチセンターの取り組み

堀内 基広（北海道大学 One Health リサーチセンター長・教授）

【総合討論】

座長・講演者略歴

今村 和彦 氏 …………… P 4

岡林 環樹 氏 …………… P 5

堀内 基広 氏 …………… P 6

今村 和彦 氏

1983年

日本大学 農獣医学部 獣医学科 卒業

1985年

日本大学大学院 獣医学専攻 卒業

1986年4月～ 2019年3月

福岡県北九州家畜保健衛生所 勤務、以降も福岡県に奉職

1999年4月～ 2003年3月

熊本大学 医学教育部 研究生

2019年6月～ 2023年6月

公益社団法人 福岡県獣医師会 専務理事

2023年4月～ 2024年3月

アジア獣医師会連合 (FAVA) ワンヘルス福岡オフィス 事務局長

2024年4月～ 2025年3月

アジア獣医師会連合 (FAVA) ワンヘルス福岡オフィス 副所長

2023年6月～現在

公益社団法人 福岡県獣医師会 副会長

岡林 環樹 氏

2000年3月

酪農学園大学大学院獣医学研究科博士課程 修了/獣医学学士

2001年5月～ 2002年4月

大阪大学微生物病研究所エマージング感染症研究センター研究機関
研究員

2002年5月～ 2011年3月

札幌医科大学 医学部 助手、助教、講師

2011年4月～ 2012年3月

大阪大学 微生物病研究所 タイ拠点マヒドン—大阪感染症センター
特任准教授

2015年4月～ 2023年3月

宮崎大学 農学部 准教授、教授

2023年4月～現在

宮崎大学 産業動物防疫リサーチセンター 教授

堀内 基広 氏

1988年4月～1988年12月

日本ロシュ（株）

1989年1月～1996年5月

帯広畜産大学畜産学部・助手

1996年6月～2000年3月

帯広畜産大学原虫病分子免疫研究センター・助教授

1997年7月～1999年7月

米国国立衛生研究所・訪問研究員

2000年4月～2003年7月

帯広畜産大学原虫病研究センター・助教授

2003年8月～2017年3月

北海道大学大学院獣医学研究科・教授

2017年4月～現在

北海道大学大学院獣医学研究院・教授

2017年4月～2021年3月

北海道大学大学院獣医学研究院・獣医学部 研究院長・学部長

2021年4月～2025年3月

北海道大学大学院国際感染症学院・学院長

2023年10月～現在

北海道大学One Healthリサーチセンター・センター長

講演要旨

今村 和彦 氏 P 8

岡林 環樹 氏 P 9

堀内 基広 氏 P10

「ワンヘルスの社会実践」：福岡県における12年間の実践と未来への羅針盤

○今村和彦

公益社団法人 福岡県獣医師会

2013年12月、福岡県医師会と福岡県獣医師会が「ワンヘルス（OH）に基づく学術協力の推進に関する協定」を締結したことで、本県におけるOHの実践は本格的に胎動いたしました。以来、福岡県はOHを単なる公衆衛生活動にとどめるのではなく、人間、動物、環境の健康を一体的に捉える「生存戦略」と位置づけ、理論を社会実装へと繋げる先進地として歩んでまいりました。

本講演では、まず2013年から2025年までの12年間にわたる本県の取り組みを振り返ります。特筆すべきマイルストーンとして、2016年にはWVA（世界獣医師会）およびWMA（世界医師会）による「第2回世界獣医師会 - 世界医師会 “One Health” に関する国際会議（GCOH）」において「福岡宣言」が採択されました。続いて2021年には、全国初となる「福岡県ワンヘルス推進基本条例」を施行し、強固な制度的基盤を確立いたしました。さらに2022年には、アジア各国の結束を固めた「FAVA（アジア獣医師会連合）福岡大会」を成功させております。

現在、本県では「人獣共通感染症対策」「薬剤耐性（AMR）対策」「環境保護」等を含む「6つの柱」を軸に、多角的な施策を展開しております。特に次世代育成に向けた「ワンヘルス教育」は、2024年度から多くの公立・私立高等学校での実施へと拡大しており、自然への畏敬の念（Sense of Wonder）を育む探究学習を推進しています。また、認証・登録制度を通じ、民間企業や農林水産分野の関与も加速させております。

一方、実践を深める中で顕在化した課題があります。AMR対策等における専門家間の「共通言語」の構築や、医学・獣医学・環境学・社会科学が融合した実効性ある学際的連携の深化です。また、理念を県内外へ広く周知し、市民一人ひとりの行動変容を促すため、多職種の自律的な関与をいかに促進するかが急務となっております。

これらの課題を克服し、OHを2026年以降の新たな「社会設計の原理」へと昇華させるため、本県は2027年度に、国内初となる総合的な研究・人材育成拠点「福岡県ワンヘルスセンター」をみやま市に設立する予定です。さらに、直近の具体策として、本年5月2日には「医療・福祉従事者ワンヘルス大集合イベント」を開催し、地域に根ざした「顔の見えるネットワーク」を構築します。

AI/AGIが浸透する現代において、生命の根幹を見つめ直すワンヘルスは、「人間」が人間として自覚し、踏みとどまるための未来への「羅針盤」であると確信しています。

宮崎県におけるワンヘルス理念の実践

○岡林環樹

宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター、宮崎ワンヘルス研究会

宮崎県では、「ワンヘルス」という考え方を、地域の現場で実際に形にしてきました。ワンヘルスとは、人-動物-環境の健全さを一つのつながったものとして考え、みんなの健康を守っていくという取り組みです。これを地域の実情に合わせて実践するため、宮崎県では「宮崎ワンヘルス研究会（Miyazaki One Health 研究会：MOH 研、通称モー研）」という体制が自発的につくられました。モー研には、宮崎県宮崎病院、宮崎大学の医獣連携、宮崎県衛生環境研究所などが参加し、人医療・獣医療・行政が立場をこえて協力しています。

この活動が始まるきっかけになったのは、近年、人だけでなく犬や猫でも報告されている「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」というマダニ媒介性のウイルス感染症です。モー研では、行政が把握している地域の情報、医療機関での患者さんの経過、動物での発症情報などの情報を共有してきました。特に、このSFTSウイルスが動物から人へ感染することを明らかにし、その啓発活動にも取り組んできたことは、ワンヘルスの理念を地域で実践する大きな一歩となりました。

この協力体制では、勉強会やセミナーを開き、医師・獣医師・研究者・行政が立場を超えて自由に意見を交換しています。テーマはSFTSだけでなく、抗生物質が効かない薬剤耐性菌の問題、その他の人と動物に共通する感染症（＝人獣共通感染症）もテーマとして情報共有に取り組んでいます。また、獣医師や愛玩動物看護師向けの感染症対策実習も行っており、防護具の使い方や感染対策の基本などを一緒に学ぶ機会を提供しています。宮崎県のモー研の活動は、専門家だけでなく地域全体で感染症を乗り越えていく「実践型ワンヘルス」として、全国的にも特徴のある取り組みになりつつあります。

本講演では、宮崎県でのワンヘルス連携が、どのように生まれ、どのように広がってきたのかをわかりやすく紹介し、これからの地域づくりにどのように役立てられるのかを皆さんと一緒に考える機会になればと思います。

One Health for One Future

－北海道大学One Healthリサーチセンターの取り組み

○堀内基広

北海道大学大学院獣医学研究院、北海道大学 One Health リサーチセンター

One Health の概念は、1860 年代にドイツの病理学者 Virchow の人獣共通感染症の考えに端を発していると言われ、2004 年のマンハッタン原則（野生動物保全協会）で「人獣共通感染症の制圧と生態系の健全性維持には、多くのセクターの協働による領域横断的取り組み“ワンヘルスアプローチ”が必要である」ことが提唱されたことにより明確化されました。「ヒトと動物の健康と環境の健全性を一つのものとして捉える」という概念は判りやすいですが、「ヒトと動物の健康と環境の健全性の維持および向上」、「ヒトと動物の well-being」のために何をすべきか、言い換えると「ワンヘルスアプローチ」のアクションになると、具体性を見だし難いと感じる場合が多いと思います。人獣共通感染症の出現による健康被害、社会経済被害を軽減するために、医学、獣医学、および関連領域が連携した取り組みの必要性が強調されてきました。しかし、「ヒトと動物の健康と環境の健全性の維持および向上」をアウトカムと考えた場合、医学と獣医学の連携のみならず、多様な連携が考えられます。また、活動は家庭、コミュニティー、地域、国、グローバルなレベルまで様々であり、医学や獣医学が直接関与していない取り組みも多々あります。

北海道大学は、我が国におけるワンヘルスの推進に関して、アカデミアの側からリーダーシップを発揮できる総合研究拠点として、2023 年 10 月に学内共同施設（研究施設）「One Health Research Center (OHRC)」を設置しました。感染症、保全医学、汎動物学、動物福祉、の 4 領域を教育研究および活動の柱に据えて、以下の Slogan、Vision、Mission をモットーに教育・研究活動に邁進しています。

Slogan : One Health for One Future

Vision : 健全な生活環境を次世代に引き継ぐ

Mission : 人、動物、環境の健康・健全性を一つのものとして捉え、その維持と向上に寄与し、次世代に繋ぐためにアカデミアとしての役割を实践する。

当日は、我々のワンヘルスに関する教育研究活動、社会連携活動の一端をご紹介させていただくことで、皆様のワンヘルスに対する理解が深まれば幸いです。

